



鶴乃茶屋の写真見つかる

大阪梅田の茶屋町。西日本有数の繁華街として知られているこの町。その由来は、この町にあったお茶屋に由来するといわれています。

この地は、明治の初め頃まではのどかな田園風景の広がる地であった事から、春は菜の花、秋は萩の花を愛でる為のお茶屋が三軒あり、それぞれ鶴乃茶屋、萩乃茶屋、車茶屋という名前があったそうです。

しかし、これらお茶屋に関する写真はおろか、絵画などの画像資料も一切残っておらず、わずかに地元の古い方が、昔祖父母から聞いたという口伝承と、地誌などを書いた文献に少し見られるものや、落語の「裏の裏」という噺の舞台に出てくるだけで、どのような姿をしていたかなど、一切不明の幻のお茶屋でした。

そんなお茶屋の一つ「鶴乃茶屋」の写真を、今年一月、当宮禰宜が古写真を調査中に発見し、これまで幻といわれていたお茶屋の姿形が初めて明らかになりました。

年代は不明ながら、「萬載橋高木調製」という文字が見える事から、当宮御本社の北に昔、架橋されていた萬載橋近くにあった印刷所の製作によるものと思われ、その萬載橋があったのは明治中頃までですので、この写真はそれ以前のものと思われます。また、同様の調査の中で、明治中頃に茶屋町にあった凌雲閣という九層の高層建築物の写真も見つかりました。

どちらも明治中頃の茶屋町の写真であり、戦災で残存史料が少ない梅田の歴史を語る上では貴重な史料となる事から、大阪市教育委員会、大阪市史編纂所の方々へ依頼し、今後詳細な調査分析をして頂く予定となっております。



見つけた鶴乃茶屋の写真(裏座敷)



凌雲閣(手前の棒は井戸)

即位の礼から一万日

今月二十三日。平成の今上陛下の即位の礼正殿の儀から数えてちょうど一万日になります。

その慶節の日からさらに約一年後の平成三十一年春にはご讓位され、現在の皇太子殿下が踐祚あそばされます。残り一年少しとなった平成の御代。この平成の三十年間、皆様にとってはどのような年月でしたでしょうか。平成を振り返り、聖寿の萬歳を言祝ぐ思いです。

厄年の御祈禱

当神社では厄年の厄除け祈禱を受け付けております。左表にもあります通り、それぞれ厄年がございしますが、特に数え年の男性四十二才(昭和五十二年生)、女性三十三才(昭和六十一年生)の本厄の方は、大きな厄年となります。

当神社での御祈禱はご予約制ですので、事前にお電話等でご予約下さい。(初穂料五千元)

- ・御本社(神山町)〓〇六六三六一二八八七
- ・御旅社(茶屋町)〓〇六六三七一一五八六

男		性	
前厄	本厄	後厄	
平成 7年生(男) 2.4歳(小厄)	6年生(成) 2.5歳(中厄)	平成 5年生(男) 2.6歳(小厄)	
昭和 53年生(年) 4.1歳(中厄)	昭和 52年生(巳) 4.2歳(大厄)	昭和 51年生(辰) 4.3歳(中厄)	
昭和 34年生(亥) 6.0歳(小厄)	昭和 33年生(成) 6.1歳(中厄)	昭和 32年生(酉) 6.2歳(小厄)	

女		性	
前厄	本厄	後厄	
平成 13年生(巳) 1.8歳(小厄)	平成 12年生(辰) 1.9歳(中厄)	平成 11年生(卯) 2.0歳(小厄)	
昭和 62年生(卯) 3.2歳(中厄)	昭和 61年生(寅) 3.3歳(大厄)	昭和 60年生(丑) 3.4歳(中厄)	
昭和 58年生(亥) 3.6歳(小厄)	昭和 57年生(戌) 3.7歳(中厄)	昭和 56年生(酉) 3.8歳(小厄)	
昭和 34年生(亥) 6.0歳(小厄)	昭和 33年生(戌) 6.1歳(中厄)	昭和 32年生(酉) 6.2歳(小厄)	

※厄年の年齢は数え年です(満年齢に一歳足す)。
※紫〓大厄、黄色〓中厄、白〓小厄

今月の暦

【祭礼】 上巳被(三日)：神事のみ ひなまつり
菜種御供(廿五日)：神事のみ 御旅社

【節気】 啓蟄(六日)：冬籠りの虫が目覚めます頃
春分(二十一日)：昼夜等分の候

【雑節】 春の社日(十七日)：産土神を詣でる。ポケ封じ
春の彼岸(三月十八日～三月二十三日) 暮参り

【大安】 三月四日、十日、十六日、二十日、二十六日
【祝日】 春分の日(二十一日)

網敷天神社SNS、地図サイト



編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主)
つなしき ねぎ 白江 秀知

つなしき ねぎ 白江 秀知

